

二人 「好きな人が出来ました。」

柚香 「親族が五月蠅かったから我慢してただけなの。」

美也 「キミがあんまり必死だったから… 構ってあげてただけだから…」

二人 「だから私と別れて下さい。」

柚香 「ねえ？ 貴方… 本気で自分が私から好かれてるとか思ってたの？」

美也 「普通釣り合いとか考えないかな？ キミなんかが私と釣り合う訳ないよね？」

二人 「貴方の顔、見てるだけで気持ち悪くて」

柚香 「私、一番好きな人に逢えたから。」

美也 「その人の事、心の底から愛しています。」

柚香 「美也様」

美也 「柚香様」

柚香 「私ね♡ 美也様の持ち物にして貰えたの♪」

美也 「柚香様が使用人として飼って下さるって仰ってくれて♡」

二人 「今、とっても幸せ♡」

柚香 「死ぬまでずっと美也様に御奉仕させて頂くのよ♡」

美也 「柚香様にお仕えさせて頂くなんて夢みたい♡」

二人 「だからオマエは邪魔。」

柚香 「まだ自分の立場を理解してないみたいね？」

美也 「念入りに身の程を解らせてあげるよ。」

二人 「目を逸らすことは許さない」

柚香 「脳味噌滅茶苦茶に壊してあげるね♪」

美也 「二度と笑えなくなるから。」

二人 「じゃあ始めようか。」

01. 美也寝取られ落ち編

あのね、今日は大事な話があるの。

単刀直入に言うね。

ふー

君との結婚の話は無かったことにして下さい。

ごめんね。
折角頑張ってプロポーズしてくれたのにね。

理由？
聞きたい？
私が君ならこの場で席を立つけど。

まあいいいわ。
悪いのは私だしね。

好きな人が出来たの。

…違うな。

ずっと好きだった人に、また逢えたの。

初めて会ってから、もうどれくらい経ったんだろう…

私はその人にずっと惹かれ続けて
毎晩、その人の顔を思い浮かべ続けて

昨日偶然会えたの。

最初は。
最初は軽く世間話でもしてね…
笑ってバイバイしよって思ったんだけど…

すぐに無理だと悟ったわ。

私からお願いしたの。
泣きながら必死に縋って
「貴女の女にして下さい」 って膝まずいて懇願した。

無様でしょ？
幻滅してくれると嬉しいな。

ああ、まだ帰らないで。
君にも紹介するから。

ケジメ？

違うよ。
その人の命令なの。
私が誰の女かを証明しろ、ってね。

ごめんね。
君が思ってるほど、私強くないから。

話、付きました！
今から… 見て貰えます！

柚香 「くすくす。 どうも～ はじめまして～♪」

美也 「///あ、あの… 私 私」

柚香 「あら～♪ 素敵な旦那様じゃないw w」

美也 「ご、ごめんなさい！」

柚香 「くすくす。 私に謝っても仕方ないよねw？」

美也 「あ、あ、あ…」

柚香 「貴方が旦那様ですか？ よく伺っております。」

美也 「ち、違くて！」

柚香 「今、私が挨拶してますよね♪」

美也 「あ、あ、あ…」

柚香 「うふふふ。 旦那様、話はどこまで聞かれましたか？」

美也 「そ、その… 久しぶりに…」

柚香 「ねえ？ 私達がお話ししてるよね？」

美也 「あ！ も、申し訳…アリマセン」

柚香 「この人、今はこんななんですけど。 昔は恰好良かったんですよ？
母校では『王子様』なんて呼ばれてました♪
くすくす♪ ねえ？」

美也 「いえ、はい、いえ。
それほどじゃ…」

柚香 「最近屋敷を相続したのですが、広すぎて少し持て余しておりますの。
身の回りの世話をさせる者を探していたのですけど…
使えそうなのが中々見つからなくてw」

美也 「…」

柚香 「美也。 お別れの挨拶はちゃんと済ませたの？」

美也 「は、はい。 一応。」

柚香 「一応じゃダメでしょう！」

美也 「も、申し訳ありません！」

柚香 「ほら、涙を拭いて。
じゃあ、折角三人揃ったのですし
旦那様にも見て貰いましょうか？
私達がどういう関係か♪」

美也 「///は、はい！」

柚香 「くすくす♪

盗っちゃった♪

悔しいですか？
元旦那様w
まだ籍を入れてないから元彼クンかなww
うふっ♪

私も心苦しいんですけどw
この子、私じゃないと感じない身体みたいなので♪

ね〜♪」

美也 「あ、あ、あ… ゴメンサゲ！メナサゲ」

柚香 「反省するフリとかやめたら〜？
白々しい女ねえw

そうだ。
昨日どんな風に私にオネダリしたか元彼クンに見て貰いなさいよ。」

美也 「えっ！？ 嘘ッ？」

柚香 「チュッ」

美也 「アッ！」

柚香 「ほらw 元彼クンに報告してあげなさい。」

美也 「あああ い、嫌」

柚香 「『嫌』じゃないよね？」

美也 「んくう♪ み、見ないで お願い」

柚香 「あらあら〜 こんなので感じちゃうんだ？ こんなので感じちゃうんだ？ 酷い女ね〜」

美也 「あっ！ 乳首、強くしないで… ッ！ んふっ！ あッ！」

柚香 「まだ開発始めたばかりなのにw いやらしい女ww」

美也 「だ、だって だってえ 触られてるだけなのに… あッ 」

柚香 「あら〜 うそ〜 元彼の前でイッちゃうの？ さいて〜♪」

美也 「や！ や！ いや！」

柚香 「さっきと言ってること全然違うよね♪ さっき私にどんなオネダリした？ ん？」

美也 「ゆ、ゆるして… ユルテガ…」

柚香 「ふふふ。 この子って昔からこうなんですww 頭の中はいやらしい事でいっぱいなのに。 やたらと常識人ぶりがるんですww」

美也 「んふくウ～～！」

柚香 「あはは 何その顔w? 我慢してるの? 元彼クンにもイってる顔見せてあげなさいよww」

美也 「アッ くう～」

柚香 「くすくす あら～ 元彼クン、こんなので興奮しちゃいましたの？ こんなので良ければもっと見せてあげましょうか？」

美也 「やー！ やーなの！」

柚香 「あははははw 自分で股を開きながら何を言ってるんだかw w」

美也 「ち、違！ これは違うの！」

柚香 「私のペニス。 欲しいよね？ いらないの～？ やめよっか？ 別に私はどっちでもいいんだけどな？」

美也 「え？ え？ え？」

柚香 「ふふっ じゃあ、しばらくセックスはしなくていいよね？」

美也 「あ！ あ！ じゃなくて！？」

柚香 「くすくす 何？ 誰が勝手に入れていいって言ったの？」

美也 「も、申し訳ございません！」

柚香 「私に抱かれない時はどんな風をお願いするんだった？」

美也 「はっ はひっ！」

柚香 「なさけない女w」

美也 「お、お恵み下さい！ 私は柚子様のチンポなしでは生きられない女です！ 情けない私にお情けを下さいませ！」

柚香 「うっわ～ww 普通捨てた男の目の前でそれを言う？ あなたって最低の女よね？ 旦那様可哀そうww あははははwwww」

美也 「私は柚子様に絶対服従の暇つぶしマンコです！ 何でもしますからお恵みを下さいませ！」

柚香 「ふふっ♪ 仕方のない子ね♪ 元彼クン、ごめんなさいね～ww この子、私でないと駄目みたいなので♪」

美也 「はあ はあ はあ」

柚香 「美也。 もっと腰浮かせないよw この子って学習能力ゼロだから嫌になっちゃう♪」

美也 「はッ はひっ！ 申し訳御座いません！」

柚香 「ふふっ まあいいわ。 恵んであげる ♪」

美也 「あ、ありがt… んきゅうッ！」

柚香 「ふー。 もう少し拡張工事が必要なw」

美也 「あ！ あ！ あ！ あ！」

柚香 「ほら！ まだ先っぽしか入れてないよ！」

美也 「お！？ んぐう ひや いひやあ…」

柚香 「ん～？ チンポを入れて貰ったら何て言うんだったっけ？ ん～？」

美也 「…はひまひゅ …はひまひゅう」

柚香 「あはは！ 聞こえないわねえ♪ これはお仕置きコースかな？」

美也 「ひいッ！ はひゅッ！ お、オチンポ様ッ！ オチンポ様を入れて頂いてありがとうございますございまひゅッ！」

柚香 「ほらあw 昨日も教えてあげたばかりだよねえ？ ハメて貰ってる時は腰をどんな風に動かすんだった？」

美也 「あぎゅッ は、はひっ オチンポ様を包み込む様に動きます！」

柚香 「解ってるなら、そうしなよ♪」

美也 「も、申し訳… んびiiiiiiiiii あっ あっ あっ いぎiiiiiiiiiiiiiiiiii」

柚香 「使えない女ねw」

美也 「あひいいいい♪ んはあああああ♪ はあ♡ はあ♡ オチンポ様深すぎるよお♡」

柚香 「あら～^^ 元彼クン我慢汁がジュクジュクしちゃってるね♪ いいですよ～？ いっぱいお別れオナニーなさって下さいね♪」

美也 「はあ♡ はあ♡ んふはあああ♡ 柚子様っ♡ いいですッ♡ しきゅうがズンズンしちゃいますウー♡」

柚香 「ふっw 安い女ね♪ 元彼君、安心して下さい♪ 飽きたらこの子を使わせてあげますからね♪」

美也 「んふうッ や！ やーなの！ 柚子様じゃなきや嫌なの！」

柚香 「あらあらw 元彼クン振られちゃいましたね〜♪ 可哀そうにww」

美也 「ごめんなさい！ ごめんなさい！ キミのゴミチンポなんかじゃ私絶対にイケないの！ ごめんなさい！」

柚香 「元彼クン♪ 逞しいオナニーを見せつけて美也を取り戻してみませんか？ ほら、ちゃんと勃起させて♪」

美也 「あああッ んあああああッ 柚子様！ 柚香様！ イク！ イッちゃいます！」

柚香 「だーめw 昨日、いっぱいイかせてあげたでしょ♪ 元彼クンの前くらい我慢しなさいよw」

美也 「むりいー むりいー あたやまおかじふなりまじゅーーー」

柚香 「下品な女ね。 やっぱり捨てようかしら？」

美也 「やゝー！ やゝー！ 捨てないで下さい！ なんでもします！ 捨てないで下さい！」

柚香 「やれやれw 元彼クン、こんな女に捕まらなくて良かったですね♪ ん〜？ あ〜 フル勃起してそれですかww」

美也 「んはあッ おまんこッ！ おまんこッ！ こわれちゃうッ！！」

柚香 「じゃあ、そろそろ一回出しようかな♪ 外に出して欲しいんだったかしらw？」

美也 「へっ！？ いやっ！ 中ッ 中がいいのお！ おねがひまひゅっ！」

柚香 「まあ私はどっちでもいいけどw」

美也 「柚子しやまのドロドロザーメンで私のオマンコ滅茶苦茶にしてくだしいーー！！！！」

柚香 「はいはいw 本当に五月蠅い女だわww
ねえ、元彼クン この子ってイク時の声大きすぎて困るでしょ？
ん〜 あ〜ごめんごめんw イカせた経験なかったかw うふふふww」

美也 「アッ アッ アッ アッ アッ アッ アッ アッ アッ アッ アッ アッ アッ アッ アッ 」

柚香 「耳障りなおトイレちゃんねww ほらあ！ 精子を恵んで頂く時の挨拶は！？」

美也 「はひ〜！！ ありがとごひやいまひゅ！ ありがとごひやいまひゅ！ いふううう！！ いふううう！！ あひいいい！！」

柚香 「ん〜？ どこがいいの？ ん〜？ どこがどういいの？ ちゃんと言わなきやわからないでしょ！」

美也 「子宮ズンズンすりゅピシュトンしゅごいでしゅ！ 逞しいピシュトンすごいでしゅ！！ 身体ばらばらになちゃうううう！！！」

柚香 「軽く突いてやったくらいで大袈裟な女ねw ほらあ！ 恵んでやるからちゃんと膣を閉めなさい！」

美也 「ひぎゅううう！！ ひぎゅううう！！柚子様の濃厚ザーメンきたッ！ 妊娠確実特濃じゃーめんきたッ！！！」

柚香 「何をはしやいでるんだかw ほら、元彼クンも寝取られオナニーでびゅっびゅしてくれて構いせんからね〜♪」

美也 「あーッ♡ あーッ♡ イクッ！ イキますっ！ ゆじゅしやまッ！ ゆじゅしやまッ！ おッ♡ おっ♡ おおおッ♡ あへえええ♡」

柚香 「あらあら？ うふふ。 元彼クンもびゅっびゅしちやったの？ 二人で仲良く寝取られアクメしちやったの？ お似合いじゃないww」

美也 「おゝッ！！ おおッ ひゅ、ひゅごひゅぎるよお〜」

柚香 「ほらッ！ 勝手に一人でアへ顔晒してるんじゃないわよw！ 元彼クンにちゃんと射精許可出してあげなさい！」

美也 「はひえッ はひえッ はひゅーう …ごめんなしやい ごめんなしやい 」

柚香 「ほらっ 元彼クンが負け大シコシコしながら美也のこと見てるよ？」

美也 「はあッ♡ はあッ♡ 美也はこれからもずっと柚子様のオチンポ様に御奉仕します… キミは一人で惨めに寝取られオナニーしながら寂しく死んで下さい」

柚香 「美也。 オマエは誰の女？」

美也 「ゆじゅかしやまでしゅっ！ 私の御主人様はゆじゅかしやまだけでしゅっ！」

柚香 「私の言う事、ちゃんと聞けるね？」

美也 「はいッしゅ！ 柚子様の命令には絶対服従でしゅ！！」

柚香 「まあ、そこまで言うなら側においてやってもいいかな。」

美也 「ありがとうごじやいましゅ！」

柚香 「よーし、それじゃあいつも通りお掃除フェラで締めくくろうか？」

美也 「はいっ！ オチンポ様を清めさせて頂きましゅ！ ずぼおおお！ ずぼおおお！！ ずっそおおおお！！！」

柚香 「ふっ 使い捨てのおトイレとしてはまあまあかな？ ほらっもっと奥まで！」

美也 「もぶうびぶぶーーー！！ ずぼおおおおおお！！ じゅぼおおおお！！ ずじゅぼおおおお！！！」

柚香 「くすッ♪ なあに？ 元彼クンも美也にこんな風にさせたかったの？ それとも私の極太チンポに屈服させて欲しいのかな？」

美也 「ずじゅぽおおおおお！！！！！！　　じゅぽつつじゅぽつつじゅぽつつじゅぽおおおおお！！！！！！」

柚香 「あはははwww 今の表情♪ 私がサドならそそってたかもwww
ここでしばらくフェラさせとくから♪
元彼クンは好きなだけ寝取られオナニーしておいてねw」

美也 「じゅぽおおおおおおおおおおお じゅぽおおおおおおおおおおお

柚香 「元彼クン♪ これからも負け犬の歓びを刷り込み続けてあげますね♪
あはははははははははは w w w w w w w w w w w w」

02. 柚香寝取られ堕ち編

いきなり改まってごめんなさいね。

お願いと言っても大した事じゃないの…

私達、お別れしましょう。

今までありがとう。

ふー 話は終わりよ。

貴方にもいい人が見つかるといいわね… 見つからないと思うけど。

理由？

今、「貴方にも」って言ったわよね？

そういうこと。

親族が五月蠅いから、貴方で我慢するつもりだったのだけどね。

流石に… 本命が目の前に現れちゃうとね…

本命というより、運命かしら…

ああ、ちょっと待って。

勝手に逃げないでくれる。

昨日命令されたの。

「貴方にちゃんと解らせるように」

ってね…

ふー

まあ… 確かに貴方って、全然身の程解ってないし。

手切れ金代わりに、世の中の仕組みを教えてあげるね。

「話がつきました！」

柚香 「は一。」

美也 「お邪魔しまーす♪」

柚香 「アッアッ… そ、その…」

美也 「ははっ この子が旦那クン？ 確かにキモメンだけど、見れないレベルじゃない？」

柚香 「…ハ」

美也 「んー？ どうしたー？ 昨日はあんなに『捨てる捨てる』って騒いでたじゃないw 」

柚香 「はい、いえ… ハ。」

美也 「旦那クン。 話はどこまで聞いた？」

柚香 「き、昨日 会った ところまで… です。」

美也 「セックスしたってことは？」

柚香 「ア、ハ そういう話は…」

美也 「ははは。 それじゃあ浮気になるよね？ 旦那クン可哀そうにww」

柚香 「ゴ、ゴメンナイ」

美也 「おいおい。 旦那クンに謝れって。 最低の女だなオマエは〜。」

柚香 「も、申し訳御座いません！ この埋め合わせはまた後日正式に家の者にさせていただきますので…」

美也 「ごめんね一旦クーン。 コイツ、こういうトコ多いでしょ？ ダメだよー甘やかしちゃww」

柚香 「…反省しております」

美也 「ほら、もっとちゃんと頭下げなきゃ駄目だろ。 昨日あれだけ教育してやったのに、全然進歩しないよな、オマエ。」

柚香 「ハハ ぎ、教育…」

美也 「んー？ 身体が思い出しちゃったか？ 今日はセックスなしだぞー。 私、旦那クンに挨拶しに来ただけだし。」

柚香 「えっ！？ そ、そんな別れたら シ 下さるって…」

美也 「は？ 馬鹿かオマエ。 旦那クンの前でヤルつもりだったの？ 最悪だなコイツ。 旦那クン、こんな女のどこが良かったの？」

柚香 「…あ あう あう」

美也 「泣くな馬鹿 chu♪」

柚香 「あんッ！ …っ ふっ ふっ ふっ 7ー」

美也 「何？ イったの？ 旦那クンの前で？ キスしただけだぞ？」

柚香 「…だって だってだってだって！ 早く二人きりに… カタデス」

美也 「おいおい。 捨てた男の前で発情とか、終わってるなコイツ。 離れろって、うっとおいしい。」

柚香 「きゃっ！ も、申し訳ございません！」

美也 「ねー、旦那クン。 コイツ年中盛ってて大変だろ？
引き取ってやる事にしたわ。 私親切だから。

んー？

悔しい？ 悲しい？ 凹んでる？

まあ、形としては寝取られちゃった訳だしね～

私が男だったら、この場で二人共叩き殺してるね。

まあ旦那クンは陰キャっぽいし、柄にない事しなくていいよ～
怪我までさせちゃったら可哀そうだしね？」

柚香 「あの あの… こんな奴もういいじゃないですか…」

美也 「はははw 旦那クンw 『こんな奴』とか言われちゃったねww いやいや、これだから女って生き物はww」

柚香 「も、もう我慢できないんです！ 美也様のお姿をただだけで… 子宮がビクビクしちゃうんです…」

美也 「あっそ。 そりゃあ大変だ。 股と頭の病院行っとけよ。」

柚香 「あ、あの！ シズ…」

美也 「旦那クン。 こんな女ほっといてメシでも行こうぜ。 何か奢らせてよ。」

柚香 「お願いします！」

美也 「んー？」

柚香 「柚香は美也様にお仕える為に生まれてきた卑しいメス豚です！」

美也 「ふーん。」

柚香 「美也様の望む事なら、何でもします！ 一生どこにでも着いていきます！」

美也 「旦那クン、昨日の晩飯何くった？」

柚香 「美也様の遅いオチンボ様なしでは生きられません！ どうかオチンボ様をお恵み下さい！」

美也 「は一。 私も暇じゃないんだけどねー。 旦那クン。 すぐ終わらせるから、そこで見学してなよ♪」

柚香 「あ、ありがとうございます！ 誠心誠意尽くします！」

美也 「はいはい。 わかったわかった。 ハメてやるから、とりあえずチンポしゃぶれや。」

柚香 「はいっしゅ！ ふっふっふっふ！」

美也 「は一、めんどくせー。 ねえ、旦那クン 一つ謎なんだけどさ。 何でこんな女と付き合ってるの？」

柚香 「じゅぽぽぽぽぽっ すずすず すっそおおおおおおッ！」

美也 「ん～♪ つまんねー女だけど、フェラだけはまあまあかな。 60点くらいならあげてもいいかも。」

美也 「使えね一女だな… あー 出そう。 ふー。」

柚香 「んおおおおお♡ イクっ♡ イクっ♡ んみいいいいッ 美也様ッ♡ 美也様ッ♡ お精子お恵み下さいませッー！！ 」

美也 「あ、出た。 あー、今日は結構出るわ。 旦那クンも射精していいよ〜？」

柚香 「んおおおおおおお！！！！ しきゅうッ！ しきゅうッ！ しきゅうにいっぱいでああああッ！」

美也 「一応出し切っとくか…」

柚香 「クククククッ—— 熱々ぞーめんッ イツキュー——————ッ！！！！」

美也 「ふー、スツキリ ♪」

柚香 「あひっ♡ あひゃッ♡ はひい〜♡ はーッ♡ はーッ♡ はーッ♡」

美也 「おう。 私が出したらどうするんだった？」

柚香 「も、もうひわけごじやいませ… からでやがうごきやなくて…」

美也 「おらッ いいからしゃぶれ。」

柚香 「はッ はひ〜!!! じゅぽじゅっ!! じゅぽっ! じゅぽおおおお!!!」

美也 「ふー。 トロい便所だわ。 おう、もっと丁寧にしゃぶれ！」

柚香 「ぶッ　ぶびばべんッ！！　　つちゅううう～♡　　みちゅうううう～♡　　べちょおおおお～♡」

美也 「おー。 旦那クンもいっぱい出せたみたいじゃない♪ どうせキミ、マゾでしょ？ 喜んでくれると思ったよ♪」

柚香 「じゅぼじゅるう♡ じゅぼじゅるうう♡ じゅぼじゅるううう♡♡」

美也 「ほらッ 付き合ってくれた旦那クンにお礼を言いなさい。」

柚香 「じゅぽおお♡　じゅぽおお…　じゅぽっ」

美也 「ごめんねー。 念入りに教育しとくからwww」

柚香 「あ… ああ… あなた… 寝取られ射精しちゃったの…？
自分の奥さんを目の前で奪われて 悔し泣きオナニーしちゃったの… 弱い男って最低。
捨てて正解だわ…」

美也 「おいおい 本当の事言うなよ。 可哀そうだろ。」

柚香 「だってコイツ美也様の足元にも及ばないゴミなんですもの。 オチンポ様への御奉仕続けますね♪ れろれろれろれろれろっ♡」

美也 「うゝッ♡ コイツ、チンポしゃぶりだけは最高だなっ あッ♡ ははっ もう一発出るかも♪」

柚香 「ぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶぶーぶ ♪ (柚香は美也様の所有物で一す♡)」

美也 「酷い女だな。旦那クン、本当にゴメンね。埋め合わせに、これからも見せつけセックスで去勢オナニーさせてあげるね♪」

柚香 「じゅぽおおおおおおお　じゅぽおおおおおおお　ずじゅじゅぽおおおおおおお！！」

美也 「おお… このチンポしゃぶり機すっご♡ ん？ 旦那くんどうしたの？ 好きなだけ負け犬オナニーしていいんだよ？ ほら、見ててあげるから去勢びゅっぴゅしよっか♪」

柚香「ずぞおおおおおおおおお おお おお おお おお おお ずぞおおおおおおおおお おお おお おお おお おお ずじゅぞおおおおおおおおお おお おお おお おお おお

美也「んじゃあ、旦那クン。 これからもヨロシクね～ww」

03. 用済み負け犬を身の程調教する為のダブルデイルド

柚香「あら^^～ 負け犬オチンポちゃんの勃起が止まらないの？」

美也「可哀そうにww 脳味噌壊れちゃったね♪ ご愁傷様w」

柚香「ふふっ 私のこと、そんなに好きだったの？ くすくすくすww」

美也「少しでも振り向いて貰えるかと思ってた？」

二人「「ば～か♪」」

柚香「釣り合いて言葉、聞いたことなかったかな？」

美也「キミは一度、鏡を見る所から始めようか♪」

柚香「身の程知らずくんにはお仕置が必要ねw」

美也「今から『不用品』の烙印を刻み込んであげよう♪」

二人「「去勢。」」

柚香「くすくす 負け犬オチンポちゃんがヒョコヒョコ反応しちゃったね」

美也「寝取られて感じちゃうの？ ふふふ。 オマエはオスじゃないんだよ。」

柚香「こんな使えない負け犬オチンポちゃんには要らないよね？」

美也「あれ～？ 去勢予告されたのに、お精子チョロチョロ漏れてるね♪ どうして？」

二人「ほら、股を開け♪」

柚香「今からその汚いチンチンの生殖機能を没収するから♪」

美也「絶対にセックス出来ない身体にしてあげるね♪」

柚香「今、股を開けて言われたばかりだよな？」

美也「おやおやw 厳しめの教育が必要なw」

二人「くすくすくす。」

柚香「そのゴミチンポ、私たちにもっと見せてごらん♪」

美也「ふふっ 指で摘まめよww」

柚香「あはっ♪ 無価値な男ってペニスまで価値が無いよね♪」

美也「くすくすくす。 うわー、この状況に興奮してるの？」

柚香「気持ち悪い奴w」

美也「オマエ。 これから一生セックス禁止ね～ 風俗とかも禁止♪」

柚香「劣等遺伝子根絶しなくちゃ♪」

美也「安心して♪ ケツマンコは使わせてあげるからw」

二人「おちんちん欲しいよね？」

柚香「私の大きなオチンチンをしゃぶりたくて仕方無かったんだよね♪」

美也「安心して♪ 今からこの逞しいバキバキチンポで解らせてあげるから。」

柚香「ほら♪ ハメて貰う時はマンぐり返しでしょ♪」

美也「じゃあ、おねだりしよっか？」

柚香「正直に言いなさい♪」

美也「滅茶苦茶に犯されたいんだよな？ 私達にw」

柚香「可愛くおねだり出来たら種付けレイプでアクメさせてあげるよ♪」

美也「くすくす。 お尻フリフリしよっか？ 」

柚香「あら～？ お願いが聞こえないわね？ ちゃんとと言わないとオチンチンあげないよww」

美也「ほ～ら♪ ケツマンコ広げなさいw 」

柚香「もうぐしょぐしょじゃないwww そんなにレイプされたいの？」

美也「あら～ プルプル震えちゃってww かわいい～♪」

柚香「どう？ これが本物のオチンチンよ♪」

美也「ふふっ もっと身体の力を抜こうか？」

柚香「あはっ コイツ、先っぽで突いただけでパニくってるしw」

美也「可愛いね、オマンコちゃん♪」

柚香「ねえ♪ 抵抗すると壊れちゃうよ？」

美也「くすくす 壊れるまで犯し続けるんだけどねwww」

柚香「ふふっ この子少し緩くない？」

美也「どうせ一人で寂しくアナル弄ってんだろw」

柚香「きつもーい♡」

美也「よーし、身体の力を抜きなさい♪」

柚香「その粗末なチンチンもいっぱい抜いていいからね♡」

美也「あー 温かい♡ まあまあのケツマンコだわ♡」

柚香「私のオチンポ、大きすぎて貴方の前立腺をえぐってあげられないかも♪」

美也「ふふふっ 不細工って泣き顔まで不細工だねww」

柚香「あらー そんなにアナル気持ちいいの？ くすくす」

美也「ん〜？ 苦しい〜？ 内臓、壊れちゃうね♪ 加伊ーwww」

柚香「いつでも死んでくれていいからねw オマエなんか要らないしw」

美也「くすくす。 オチンチン、凄く勃起してるねえ？ どうして？」

柚香「あ〜 このおトイレ気持ちいい♪ 顔は気持ち悪いけどww」

美也「うふふ。 お尻アクメしちゃったの？ 男として終わってるね♡」

柚香「うっそーw こんなのが気持ちいいんだ〜ww」

美也「やめて欲しい？ 続けて欲しい？ キミが決めていいんだよ♡」

柚香「貴方の嫌がる方をしてあげるからね♡」

美也「強姦されてイッちゃうんだww ん？ レイプされるの気持ちいい？」

柚香「あら？ ここがいいの？ ん〜？ ここか〜？ こんなので感じるのか〜？」

美也「うふふふ。 可愛い声で泣くよね、この子♪ 苛め甲斐があるわぁ♡」

柚香「あらあらw！ カウパーだだ漏れじゃないww チンポねじ込まれて射精しちゃうんだww」

美也「情けない男♡ 女に犯されてメスイキするんだww」

柚香「奥まで入れてあげよっか？ まだ意識ある？ ん〜？」

美也「私がピストンしたら、キミ死ぬよ？ それでも、もっと激しくして欲しい？」

柚香「この子、本当にチンポが好きよねww うふふ。 あ、またアクメしてるしww」

美也「痙攣しすぎww 感じての？ 死にかけての？ どっち〜w？」

柚香「くすくす。 このオマンコちゃん、必死でクネクネしてるよねww そんなに私達に気に入られたいの？」

美也「ケツマンコ結構吸いつくね♡ 今日からキミのこと、『チンポ穴クン』って呼んであげよう♡」

柚香「あら〜w この子の動き激しくなった♡ 興奮する要素とかあったの〜？」

美也「チンポ穴クン♪ お尻にチンポねじ込まれてトコロテン射精しちゃうチンポ穴クンww」

柚香「おい、チンポ穴。 返事は？」

美也「呼ばれたら返事しよっか？ チンポ穴クン♡」

柚香「よーし、チンポ穴。 いい子ね。 もっとオマンコ締めなさい♡」

美也「今の表情 可愛いよ、チンポ穴クン♡ 返事は？」

柚香「オマエは性欲処理用のチンポ穴。 乱暴に扱われるとイッちゃう、マゾマンコちゃんww」

美也「よーし、そろそろ出そうかな♪ オマエも射精していいからな、メスイキチンポ穴クン♡」

柚香「ふふふっ 何コイツww 必死で腰振ってるしw オネダリしてるつもりなの？」

美也「くすくす。 壊れるまでは使ってあげるからね、おトイレクン♪」

柚香「あらぁ♡ それで射精なの？ もっと出していいのよ？ 薄い精子ねえwww」

美也「オマエの小さいペニスwww 早い射精www 薄い精液www スペック低い子って存在が可哀そう♡」

柚香「おいチンポ穴♡ 私、今から射精するから♡ 一滴でもこぼしたら後でお仕置きね♪」

美也「ふー 気持ちいい♡ 後少し… あっ出しちゃった。 ふー、最高。」

柚香「いつでも気軽に中出し出来るトイレって便利よね〜♪ 私も後ちょっとイケそう♪」

美也「おいチンポ穴。 私が出し終わったらしゃぶれ。 隅々まで丁寧に舐めろよ。」

柚香「あっ♡ ちょ♡ また締まる♡」

美也「なにー？ カズくでチンポしゃぶらされて興奮してるの？ マゾって幸せよね♡」

柚香「ああ〜 す、すごい♡ つく♡ 我慢とか無理イ♡ んんんんんん♡」

美也「くすくす。 おなかポテポテになってて可愛い♡」

柚香「ふィ〜〜〜〜♡ さいこう♡ 堪らないわね♪」

美也「よーし。 じゃあ、もう一発出しとこうかな♡」

柚香「チンポ穴♡ これで終わりとか思っていないよね？」

美也「はははっ なに興奮してんのオマエwww」

柚香「ん〜？ 嬉しいの？ 私達にレイプされ続けるのがそんなに嬉しいんだwww」

美也「うらぁ♡ これがいいのか？ このチンポがいいのかぁwww」

柚香「情けない奴www 泣きながらメスイキしてるしwww」

美也「おいチンポ穴！ 勝手に終わるんじゃない。」

柚香「おトイレの仕事は壊れるまで一生続くんだからね。」

美也「ほらッ 出すよッ 全部マンコで受け止めろ」

柚香「一滴でもこぼしたらお仕置きで泣かす♡」

美也「んッ！ ふうう。 使い勝手のいいトイレだわ、これ♡」

柚香「ほらあ！ 勝手に止まるんじゃない！ 次は私が出す番よ！」

美也「もっとお尻フリフリしなさい♡」

柚香「あー♡ 出る出る出る出る♡ んはああああ♡」

二人「ああああああ♡」

EX. 純愛百合繚乱ウェディングベル

美也「やっと二人になれたね♡」

柚香「邪魔者がいなくなって嬉しいです♡」

美也「私、柚香の事が好き。」

柚香「私だって、ずっとずっと美也のことばかり考えてます」

美也「ねえ… して、下さい」

柚香「同じこと思ってた…」

美也「あッ♡ んッ♡」

柚香「ずっとね、美也をこうしたいって思ってた…」

美也「ふッ♡ ん♡ ふぐうッ♡」

柚香「もう離さないからッ！」

美也「…滅茶苦茶にして」

柚香「後で私もちちゃんと壊して貰うからッ」

美也「…はい♡」

柚香「美也ッ 美也ッ 美也ッ 好きッ 大好きッ」

美也「ああッ♡ す、すごい… あ♡ んふうう♡♡」

柚香「はじめて逢った時からッ！ ずっとこの日を待ち望んでたッ！ 美也のことだけ考えてたッ！」

美也「あ♡ つふ♡ 強いくる… 私、 アッ♡ 幸せ… んっ♡ です♡」

柚香「もう誰にも触らせないからッ 好きッ 好きッ 美也は私の女だからあッ」

美也「ふあああああッ♡ ひあッ♡ ふぐううううッ♡ い、いく♡ い、いっちゃうッ♡」

柚香「いいよ、いっぱいいて。 私で感じてッ」

美也「あッ♡ 私の柚様のオチン… んひひひひひひひ おひっ♡」

柚香「美也は泣き顔も可愛いね♪」

美也「ふあああああッ♡ オチンボずぼずぼ来るう！ もっと滅茶苦茶にしてえ♡」

柚香「はあッ！ はあッ！ はあッ！ 後でちゃんと私を責めてくれる？」

美也「責めますッ 責めますッ ちゃんと柚様に御奉仕しまッ… んふあッ♡ ひぎ♡♡」

柚香「ふっ ふっ ふっ ふっ ふっ ふう————」

美也「アッアッアッアッアッアッアッアッアッアッアッアッアッアッアッ♡」

柚香「ねえ オマエは誰の女？」

美也「あッ♡ あッ♡ あッ♡ わッ♡ わたしッ♡ 柚様の女ですッ！」

柚香「最高の気分だわ。 誰にも渡さないからッ♡」

美也「ふおおおッ♡ はいッ♡ 美也は柚様だけのものですッ♡」

柚香「ふッ ぐう… 絶対孕ませるから！ 子宮の中に私の精子を刻み込んでやるから！」

美也「んほおおおッ♡ ざーめんしゅごいッ い、いきゅう♡ 中出しアクメとまりやないによおおッ♡！！」

柚香「ほらあ、もっと腰起こしなさいよ！ まだまだ射精するからッ！！」

美也「んはあッ♡ ひひやあッ♡ んひッ♡ んひひひひひひひひッ♡」

柚香「フッ！ フッ！ フッ！ フッ！ フッ！ フッ！」

美也「アッ！ ンッ！ んおおおおッ！ いやッ！ んほッ！？ あひあへえっ♡」

柚香「出すから、一番奥で受け止めなさい！！！」

美也「ふえっ ひや、ひやッ♡ ちょ！ んッ！？」

柚香「美也ッ！ 中に出すよッ！！！！！！！！」

美也「ッあああああああああああああああああああああああああああッ♡」

柚香「ふ——。 んはあ—— ふー ふー ふー。 こんなに出したの、はじめてかも…」

美也「あ あ あ あ…」

柚香「ねえ。 まだ意識ある？」

美也「あう あう… ああ♡」

柚香「さっき言ったよね？ 私を滅茶苦茶にしてくれるって。 ちゃんと壊してよね。」

美也「無理ィ 無理ィ 気持ちよしゆぎて うごけないよ♡」

柚香「ふふっ その割にオチンチン、凄い事になってるね♪ 亀頭とかすぐく痙攣してるよw」

美也「あっ！ そ、その触り方駄目え♡」

柚香「可愛い声出してるんじゃないわよ。 ほら、さっさと私を犯しなさい。」

美也「ほんとにッ ほんとにッ 動けないのお♡」

柚香「ふふっ じゃあ私が乗るから。 んッ！ ああ、やっぱり大きいッ あ！？ すごっ！！！！」

美也「んふあっ！！ あああああ… 余韻楽しみたかったのにィ♡」

柚香「あ！？ あ！？ あああああ こ、こんなの こんなの いつもよりギンギンしすぎィ♡」

美也「だって、だってえ♡ 何回も何回もイキまくったから もうオチンポはち切れそうなのお♡」

柚香「アッ！ 意識飛ぶかもっ んッ！？ あ・あ・あ・あ・ああ… 」

美也「動くよ？ じゃあ動くからね？」

柚香「あ、あっ！ ちょッ！ んきやあああああああッ！！！！！！」

美也「おおおおおッ！！ うッ！ うッ！ うッ！ うッ！ うッ！ うッ！ うッ！ うッ！」

柚香「んかッ イイイイイイイイ〜ッ！！！！！！！！！！」

美也「ああああッ 何で柚ってこんなに綺麗なッ！ ずるいッ！ イッたばっかなのに！ イッたばっかなのに！ 幾らでも精子出せそうだよお♡」

柚香「があああああッ あ°ッあ°ッあ°ッあ°ッあ°ッあ°ッあ°ッあ°ッあ°ッあ°ッあ°ッ！！！！！！」

美也「好き！好き！好き！好き！好き！好き！好き！好き！ 柚の事しかかんがえられないのおおおおおおッ！！！！！！」

柚香「くっ くひひひひひひひッ！！！！」

美也「柚ッ 柚ッ 柚ッ ゆずうううううううううううううう！！！！！！！！」

柚香「あ————ッ♡ あ————ッ♡ んひい————ッ♡」

美也「キスッ キスするからッ！」

柚香「んむううう————！！！！」

美也「ふむじゅう————！！！！」

柚香「ぶはああ！！」

美也「っはあ！！」

柚香「ん♡ ん♡ ん♡ ん♡ ん————ッ♡」

美也「あんッ♡ や♡ いいッ♡ んぎゅッ♡ あひひひひひッ♡」

柚香「はあああ はあああ はあああ このまま死にたい…♡」

美也「ふー— ふー— ふー— あああああ」

柚香「余韻とまらないのお♡ 勝手にアクメしちゃうのお♡」

美也「アッ♡ 身体、勝手にビクビクしちゃう♡」

柚香「美也あ♡ 美也あ しゅごかった しゅごかったです んあッ♡ ふい〜ッ♡」

美也「柚ッ♡ 柚ッ♡ お願いッ もう離さないでッ もっとギュッてしてえ♡」

柚香「美也」

美也「柚香」

柚香「大好き、一生一緒だよ。」

美也「愛してます、二度と離さない。」

(完)